

2024 年度 団体交渉 議事録

日時：2024年 12月 5日(木) 17:00～18:00

場所：図書館棟 4階第1会議室

上半期業績報告資料について

- 教育活動収入計 28,989百万円（昨年比 +160百万円）
- 教育活動支出計 27,658百万円（前年比 +343百万円）
- 教育活動収支差額 1,331百万円（前年比 ▲182百万円）

当年度だけで見れば黒字（黒字額は昨年度より小さい）

1. 賞与の引上げについて

- 今回は要求に沿った増額なし
- 仮に加給額を5000円／人とすると約1千万円の支出となる（事務方コメント）

2. 基本給の引上げについて

- 2024年6月より診療報酬改定に伴う賃上げを実施し職務手当として支給（回答書）
(追加回答に内訳あり)
- 次年度は2.2%の賃上げとなる見込み（事務方コメント）

(組合) 今後の賃上げのために何を収入源と考えているか？

(回答) 教職員の生産性向上による収支差額の改善

(組合) 生産性向上とは具体的には？

(回答) 医療インバウンドの増加を見込む

(病院長)

(1)入院患者・手術件数・外来営業を増やす必要あり。

(2)材料費削減のためには現場医師が価格交渉に関わるのが重要。

(3)中央手術部拡充にむけて現在調査中

3. 私立学校方施行規則改正について

- 理事会 17名 → 13名

- 評議員 36名 → 15名

- 監事 3名 (変更なし)

- 理事の選任 理事会 → 理事評議員選任委員会 (委員の過半数は評議員会)

- 監事の選任 理事会 → 評議員会

(評議員の選任方法は聞き漏らした)

(組合) 外部からの (たとえば銀行など) 介入が強まるということか。

(回答) それはない、むしろ監事の機能が強まるので理事会の透明性が上がるのでは。

4. 賞与原資減少に関する管理者の責任

(特に意義のある回答・コメントなし)

5. 36協定

6. 就業ルール周知

(要求書、回答書の内容を確認)

7. 「断らない救急」

救命救急センター開設による「断らない救急」と時間外勤務延長について

勝間田先生の発言

納税者に求められている救命救急センターの役割を果たすため、ここでしか対応できない診療を行う。

「断らない救急」は象徴的な文言で、何でも対応するように言っているわけではない。

その場の医師（救急医）が当面の診療にあたる。

8. 兼業について

要望が伝わった感じを受けなかった。

9. 福利厚生としてのDC

(組合) 法人拠出学1000円の将来的な増額を

(回答) 拠出金増額を現在は考えていない

(組合) 更新の機会は1回だけか。福利厚生としての利点が周知できていないのでは。

(回答) 様子見ながら更新、新規契約についての機会をつくる。

(組合) 福利厚生をもっと考えてほしい；例として、食堂でお弁当販売、教職員が使えるAIを法人契約、など。

学長の追加発言

- ・2022年の出生数は88万人を想定していたが、実際には77万人で、将来の学校教育に影響が出る。新しいことにチャレンジするか、学校を集約し撤退するか、もう一つの案からどれかを選択することを求められる。撤退する場合には補助金が出る。本学は、これをチャンスと考えチャレンジすることを選んだ。ヨーロッパでは、Ver1. 教育、Ver.2研究、Ver.3社会実装、Ver.4社会を変える研究を行う、と段階が進むことが言われている。本学には、BNCTがあり、LDセンターがある。これらを中心に研究が進むことが考えられるため、チャレンジしていく。

以上